

平成27年7月25・26日
シリサイド系半導体と関連物質研究会・夏の学校

九州大学大学院総合理工学研究院 准教授
吉武 剛

シリサイド系半導体と関連物質研究会・夏の学校

〈主催〉

応用物理学会シリサイド系半導体と関連物質研究会

〈共催〉

博士課程教育リーディングプログラム グリーンアジア国際戦略プログラム
九州大学エネルギー基盤技術国際教育研究センター

平成27年7月25日(土曜日)、26日(日曜日)に、シリサイド系半導体研究会 夏の学校を、グリーンアジア国際戦略プログラムと九州大学エネルギー基盤技術国際教育研究センターとの共催で、九州大学九重山の家と九州地区国立大学九重研修所で開催しました。

シリサイド系半導体はグリーンテクノロジーとの関連が強く、具体的には鉄シリサイド、バリウムシリサイド、マグネシウムシリサイド、ならびにシリコンクラスレートが光電変換および熱電変換材料として現在活発に研究されています。夏の学校では、金属シリサイドの結合と電子構造、シリサイド薄膜のヘテロエピタキシャル成長、およびシリコンクラスとレートの合成と物性に関して、それぞれ産業技術総合研究所の今井庸二博士、筑波大学の末益崇教授、

物質・材料研究機構の今井基晴博士により、包括的でわかりやすい学生向けの講義が行われました。加えて一日目の夜は、野外でのBBQと並行して、隣接する研修所のロビーにて学生によるポスター発表が行われました。各大学から最新の研究結果が発表され、活発な議論を行うことが出来ました。

現在、種々の光電変換材料及び熱電変換材料が研究され、それらは様々な研究フェーズで研究開発が行われています。今回のサマースクールに参加することで学生は、シリサイド半導体材料の研究開発状況を知ることを通して、大学研究レベルのフェーズの研究が、どのような狙いを持ってどのように行われているかを知る事が出来たのではないかと思います。

